

・・・ 編 集 後 記 ・・・

『臨床検査学教育』第10巻1号は、昨年8月に埼玉県立大学で開催された第12回日本臨床検査学教育学会学術大会でご講演頂きました先生方を中心に原稿のご執筆をお願い致しました。大会長の松下 誠先生をはじめ、ご寄稿頂きました多くの先生方に編集委員を代表して心から深謝いたします。今回の学会特集号では、「つながりを創る」というメインテーマで、シンポジウム I では、今後ますます重要性を増してくる「チーム医療(連携医療)を担う臨床検査技師の育成」について、専門職連携教育を積極的に実践している4大学の取り組みをご紹介します。

我が国の医療現場は、少子高齢化の急速な進展、疾病構造の変化(慢性疾患の増加)、医療の高度化・専門分化、患者志向への転換など、大きく変化しています。このような医療環境の変化に伴い、国や厚生労働省はチーム医療を推進しようと方針を打ち出していますが、就職した病院や施設で、いきなりチーム医療が重要だと言われても、専門職連携教育が十分にされていない急造の医療チームでは、それぞれの医療専門職が力量を十分に発揮し、安心で質の高い医療を提供することは難しいと思われまます。チーム医療では、医師・看護師・臨床検査技師・診療放射線技師・臨床工学技士など全ての医療専門職が対等の関係で自由に議論できる環境(知識創造の

場)の形成が重要で、主体的で問題解決能力のある個々の医療専門職が連携・協働して行う総合的質管理 Total Quality Management に基づくチーム医療こそが、これからの医療現場に相応しいと考えます。従って、臨床検査技師にも専門職連携教育が絶対に必要です。今後求められる臨床検査技師は、単なる分析装置のオペレーターではなく、チーム医療の一員として主体性と積極性を持ち、医師やその他の医療専門職と対等に論議できる臨床検査技師です。欧米を含む世界の多くの国の検査技師は検体検査しか実施できないのに対して、日本の臨床検査技師は、検体検査のみならず生体検査(生理機能検査や画像検査)も実施できます。その教育領域は、限りなく医師に近く、教育次第で無限の可能性を秘めているといっても過言ではありません。そして、臨床検査技師が主体性を持ち、積極的にチーム医療に貢献することは、間違いなく医療の質・効率の向上につながると期待されます。

今後も、『臨床検査学教育』の編集を通じて、臨床検査技師教育の発展に少しでも貢献できれば幸いです。末筆ながら、会員の皆様方には、今後とも変わらぬご愛顧とご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

(平成30年1月5日 編集委員長 野島順三)

一般社団法人 日本臨床検査学教育協議会
日本臨床検査学教育学会 学術部
編集委員会(平成29・30年度、五十音順)

副理事長(学術部)：齋藤邦明(藤田保健衛生大学)

委員長：野島順三(山口大学)、副委員長：眞鍋紀子(香川県立保健医療大学)

委員：長田 誠(群馬パース大学)、片岡佳子(徳島大学)、坂口みどり(九州医学技術専門学校)、柴倉美砂子(岡山大学)、嶋田かをる(熊本保健科学大学)、西川 潤(山口大学)、藤田和博(大東文化大学)、外園栄作(九州大学)、松尾収二(天理医療大学)、村上博和(群馬大学)、横尾智子(新渡戸文化短期大学)、横田浩充(東邦大学)

臨床検査学教育 第10巻第1号

平成30年3月1日 発行

発行人：一般社団法人日本臨床検査学教育協議会
理事長 奥村伸生
〒113-8519 東京都文京区湯島 1-5-45
東京医科歯科大学大学院 保健衛生学研究科
生体検査学専攻内
Tel. 080-4893-0572
e-mail : jimukyoku@nitirinkyo.jp
http://www.nitirinkyo.jp

編集：日本臨床検査学教育学会 学術部 編集委員会
e-mail : edit@jamte.org
制作：(株)宇宙堂八木書店
〒104-0004 東京都中央区入船 3-3-3
Tel. 03-3552-0931 FAX 03-3552-0770
広告取扱社：(株)日本廣業社
〒102-0074 東京都千代田区九段南 2-3-11
Tel. 03-3238-7501